

令和7年11月28日
株式会社オリエンタルコンサルタンツ
代表取締役社長 野崎 秀則

「土木学会デザイン賞 2025」を3作品が受賞

株式会社オリエンタルコンサルタンツ（本社：東京都渋谷区、代表取締役社長：野崎秀則）がデザインと設計に関わった以下3作品が、土木学会デザイン賞 2025 を受賞いたしました。

「土木学会デザイン賞」は、2022年から4年連続の受賞となります。

最優秀賞

馬場通りアーバンデザインプロジェクト



優秀賞

多摩川スカイブリッジ



奨励賞

アルミニウム合金製防護柵・パネルール



土木学会デザイン賞は、公益社団法人土木学会景観・デザイン委員会が主催する顕彰制度です。公募対象を広く土木構造物や公共的な空間に求め、計画や設計技術、制度の活用、組織活動の創意工夫によって周辺環境や地域と一体となった景観の創造や保全を実現した作品およびそれらの実現に貢献した関係者や関係組織の顕彰を行っています。

当社は、今後もデザインと地域振興とが両立する良質な公共空間創出を目指し、国内外で社会に貢献する様々な事業展開を積極的に進めてまいります。

＜本資料に関するお問い合わせ先＞

株式会社オリエンタルコンサルタンツ

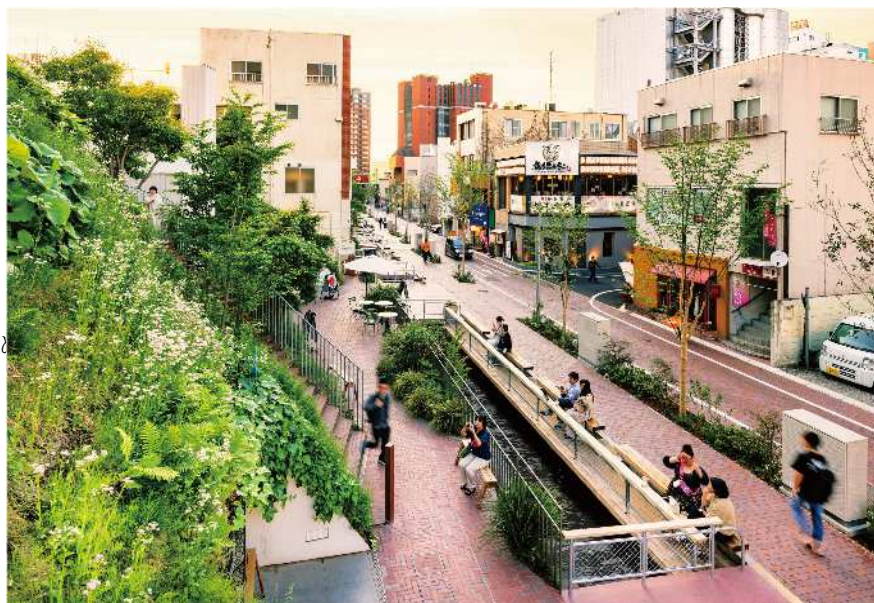
TEL: 03-6311-7551 FAX: 03-6311-8011

URL: <https://www.oriconsul.com/>

統括本部 伊藤、日原、丸山、門司

最優秀賞 馬場川通りアーバンデザインプロジェクト

- 受賞対象名：馬場川通りアーバンデザインプロジェクト
- 事業主体名：前橋市／都市再生推進法人（一社）前橋デザインコミッション
- 当社の役割：土木設計
- 概要：本計画は前橋市が掲げる官民連携まちづくり指針「アーバンデザイン」のリーディングプロジェクトであり、地元有志の寄付金によって公共工事を行う中心市街地の再生事業である。デザインの検討にあたって着目したのは、かつての城下町に張り巡らされていた水路の存在だった。酷暑で有名な前橋において、灌漑の役割を終えた水路をまちの環境装置と捉え直し、ウォークラブルな社会に資する安全性と快適性を兼ね備えた基盤に再生したいと考えたのである。
民間団体である前橋デザインコミッションが公共工事の資金調達から工事のマネジメント、完成後における管理運営の事務局機能を担う中、デザイン統括者や土木設計者は基本設計から工事監理に至るプロセスの中で、馬場川通りの価値を高める空間づくりと仕組みづくりの構築に携わってきた。デザインの考え方はシンプルで、水路に張り巡らされた柵を取り払い水面にデッキを張り出すことで「誰もが寛げる場所をつくる」というものだった。空間づくりにおいては、水路沿いにデッキやベンチを設けることの価値を共有するため、事例見学会や現地での社会実験を行い安全面や機能面の課題解決に努めた。仕組みづくりにおいては、30年に渡り通りの花壇整備に携わってきた地元の農業高校や、まちづくりに関心の高い市民を巻き込みつつ勉強会やワークショップを開催して完成後の管理運営に携わる仲間を募った。これらの成果が地域の仲間で組成される管理運営組織「馬場川通りを良くする会」へと発展した。
- 主な関係者や関係組織、講評等：<https://design-prize.sakura.ne.jp/archives/result/2916>



写真：上3点 ランドスケープ・プラス



※ 馬場川通りアーバンデザインプロジェクトは、日本空間デザイン賞2024(KUKAN OF THE YEAR他)、2024年度グッドデザイン賞、令和6年度土地活用モデル大賞、第5回グリーンインフラ大賞特別優秀賞、第23回環境・設備デザイン賞(都市・ランドスケープデザイン部門最優秀賞)、第45回緑の都市賞(内閣総理大臣賞)他、複数受賞しています。

優秀賞 多摩川スカイブリッジ

□ 受賞対象名：多摩川スカイブリッジ

□ 事業主体名：川崎市・東京都

施行主体：川崎市 建設緑政局 広域道路整備室

□ 当社の役割：橋種選定・橋梁計画・景観検討・環境保全

□ 概要：国初の都道府県境をまたぐ特定都市再生緊急整備区域「羽田空港南・川崎殿町・大師大河地域」の川崎殿町と羽田空港をつなぐ橋である。橋上の開放感と自然環境との一体感及び河川空間への圧迫感の低減を図り、多摩川の第一橋としての象徴性と維持管理に最大限配慮し、国内最大の240mの中央径間を有する3径間連続箱桁橋を水平基調の雄大な景観に調和するのびやかな美しいシルエットで実現させた。

多摩川河口部には貴重な干潟が分布し、豊かな自然環境と多様な生物が生息する生態系が形成されている。河川河口の環境アドバイザー会議を設置し、上部工の張出架設と送出し架設工法の組合せや干潟浚渫の最小化など環境に配慮した施工、継続的な環境モニタリングにより、多摩川河口の豊かな自然環境を守った。飛翔する渡り鳥や穴守稲荷の大鳥居からの初日の出の眺望に影響が少ないように、橋上構造物がなくかつ河川への光漏れの少ないライン照明採用で橋上付属物も最小化した。豊かな自然環境と離着陸する飛行機、都市と山並みと下流側の東京湾がパノラマ状に眺められる開放的な橋上空間を実現した。

自然環境に配慮した施工法や複合ラーメン構造など設計段階から施工者の有するノウハウを活用しかつ工期短縮も図るため、上下部一体の設計施工一括発注を採用した。設計・施工者が連携し、上部工の吊金具と排水横引管の省略、耐風対策の箱内処理、現場継手の溶接化と添接板のテーパ処理等、維持管理に最大限に配慮した様々な工夫により、付属物のないすっきりとした箱桁外面を実現した。最大板厚95mmの高降伏点鋼材の採用により桁高を抑え、複合ラーメン構造の橋脚接合部を桁の中央部まで立ち上げたデザインで、長大桁橋でありながら上部工のボリューム感を抑えた。これら上部工の工夫や支柱外側に横棧を配置した高欄、先進性と落ち着きを感じさせる塗装等により、桁橋の美しさと維持管理性を両立させた。

□ 主な関係者や関係組織、講評等：<https://design-prize.sakura.ne.jp/archives/result/2932>



写真：上・左下／パシフィックコンサルタンツ、右下／五洋・日立造船・不動テトラ・横河・本間・高田共同企業体

※ 多摩川スカイブリッジは、令和3年度土木学会田中賞(作品賞)、令和4年度全建賞、日建連表彰2023第4回土木賞、第36回全国街路事業コンクール国土交通大臣賞等も受賞しています。

奨励賞 アルミニウム合金製防護柵パノレール

- 受賞対象名：アルミニウム合金製防護柵パノレール
- 当社の役割：デザイン統括、基本及び詳細デザイン、デザインバリエーション
- 概要：橋梁上に設置されるアルミニウム合金製の車両用防護柵である。橋軸方向に押出した二つの押出型材を嵌合させた支柱と、陰影を生む多角形の横ビームによる構成により、従来にない透過性の高い走行空間と安全性、製作・施工の合理性を同時に実現したデザインである。

防護柵は、景観上、周辺環境の中で浮き立った存在になりやすく、透過性の低い防護柵は眺望を阻害しやすい。これまでのアルミ製防護柵の支柱には鋳物と押出型材があるが、鋳物は製作効率が低く強度種別ごとに鋳型を用意する必要があり、意匠的な精度も低い。一方で、従来の押出型材は支柱軸方向の押出のみであり必要な応力に対し断面が同一で、別体のアンカーベースを製作する必要があり、コスト高となっていた。

そこで、長尺の押出加工が可能で自由な形状を実現できるアルミニウム合金の特徴を最大限に活かした橋軸方向の押出型材とすることで、合理的な断面形状とベース部の一体成型を可能とし、国内で可能な最大径の押出型材の嵌合による接合を開発するとともに、強度種別に対しても支柱幅の切断のみで対応できる製造方法へと見直した。

橋軸直角方向に厚みをもたせた多角形断面の横ビームと、トラス状のつなぎ材や柔らかな曲線のフランジをもつ支柱を組合せることで、衝突荷重を吸収する構造的性と、視覚的に奥行きを感じさせる陰影と繊細な造形美を両立させている。構造解析とCGによるデザイン検証を並行して行い、力学性能と造形の最適化を図るプロセスを経て、構想から完成までに約4年を要した。

選定される製品としての使いやすさやニュートラルな造形も意識して設計されており、さまざまな地域風景との調和が可能である。実際に設置された六角川大橋では、透過性の高い支柱構成により、走行中に風景の奥行きと連続性が感じられ、走行空間が風景体験の場へと変化している。防護柵が遮るのではなく風景と一体化するという新たな価値を提起する製品である。

- 主な関係者や関係組織、講評等：<https://design-prize.sakura.ne.jp/archives/result/3035>

